

苫小牧市教育委員会・小学校 「令和7年度 苫小牧市統一学力検査」 考察資料

■ 調査目的

- 苫小牧市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上及び指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本及び活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 苫小牧市内の公立小学校4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

■ 調査結果

【小学校の調査結果】

		苫小牧市全体 正答率 (%)	全国正答率 (%)	全国との差
小学校 4年生	国語	63.9	66.8	▲ 2.9
	算数	66.4	72.4	▲ 6.0
小学校 5年生	国語	63.9	66.2	▲ 2.3
	算数	60.1	67.9	▲ 7.8
小学校 6年生	国語	59.6	66.4	▲ 6.8
	算数	51.7	60.9	▲ 9.2

■小学校4年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苦小牧市全体正答率 (%)	63.9	67.6	56.0
全国正答率 (%)	66.8	70.0	60.1
全国との差	▲2.9	▲2.4	▲4.1
苦小牧市標準スコア (今年度)	48.6	48.9	48.5

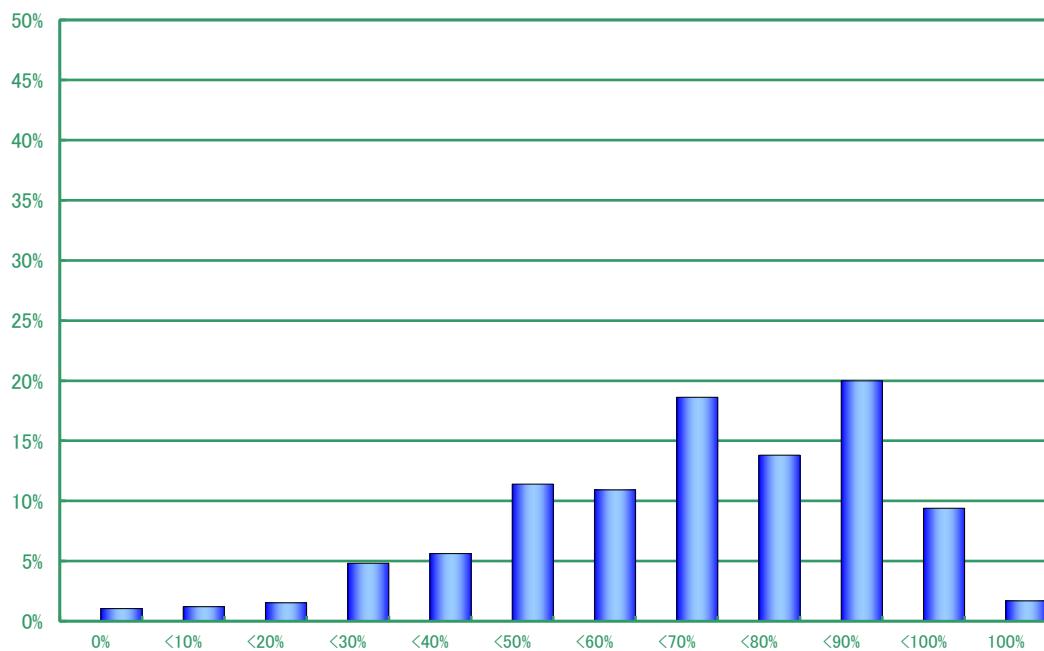
(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方にに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苦小牧市全体正答率 (%)	63.3	49.8	75.4	58.4	57.6	73.8
全国正答率 (%)	65.0	52.7	77.2	62.1	65.0	75.1
全国との差	▲ 1.7	▲ 2.9	▲ 1.8	▲ 3.7	▲ 7.4	▲ 1.3
苦小牧市標準スコア (今年度)	49.3	49.4	49.6	48.6	48.0	49.5

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苦小牧市全体正答率 (%)	63.1	64.4
全国正答率 (%)	65.0	68.1
全国との差	▲ 1.9	▲ 3.7
苦小牧市標準スコア (今年度)	49.2	48.4

(4) 正答率度数分布



■小学校4年生 算数

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率 (%)	66.4	70.0	53.3
全国正答率 (%)	72.4	76.1	59.2
全国との差	▲ 6.0	▲ 6.1	▲ 5.9
苫小牧市標準スコア (今年度)	46.9	46.8	47.7

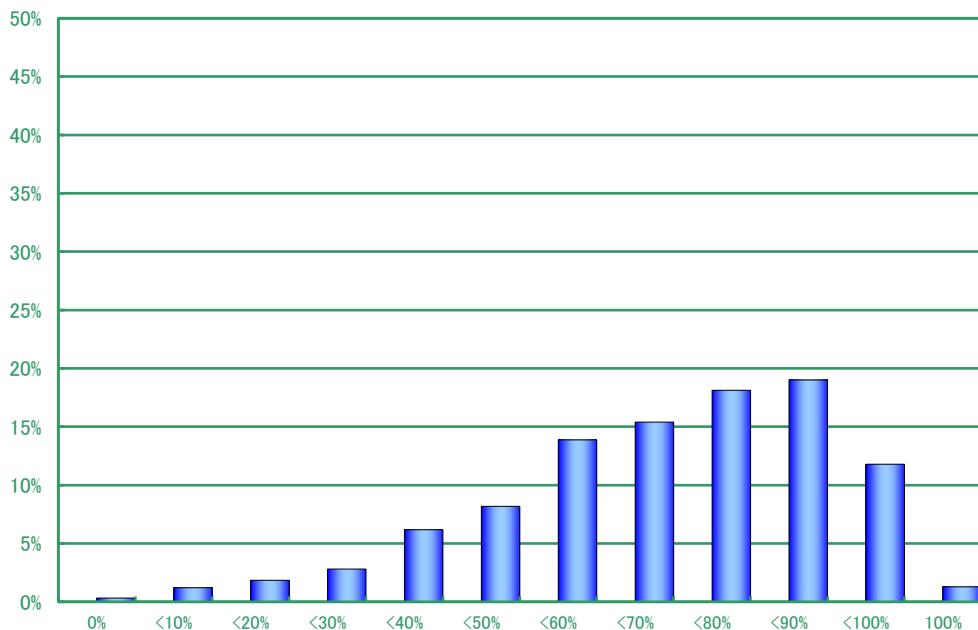
(2) 領域別正答率

	数と計算	図形	測定	データの活用
苫小牧市全体正答率 (%)	65.7	79.1	65.9	55.7
全国正答率 (%)	71.9	84.3	72.1	61.1
全国との差	▲ 6.2	▲ 5.2	▲ 6.2	▲ 5.4
苫小牧市標準スコア (今年度)	46.9	48.0	47.5	48.3

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率 (%)	70.5	51.8
全国正答率 (%)	76.4	58.3
全国との差	▲ 5.9	▲ 6.5
苫小牧市標準スコア (今年度)	46.8	47.7

(4) 正答率度数分布



■小学校5年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苦小牧市全体正答率 (%)	63.9	67.9	54.8
全国正答率 (%)	66.2	69.3	59.3
全国との差	▲ 2.3	▲ 1.4	▲ 4.5
苦小牧市標準スコア (今年度)	48.8	49.3	48.2

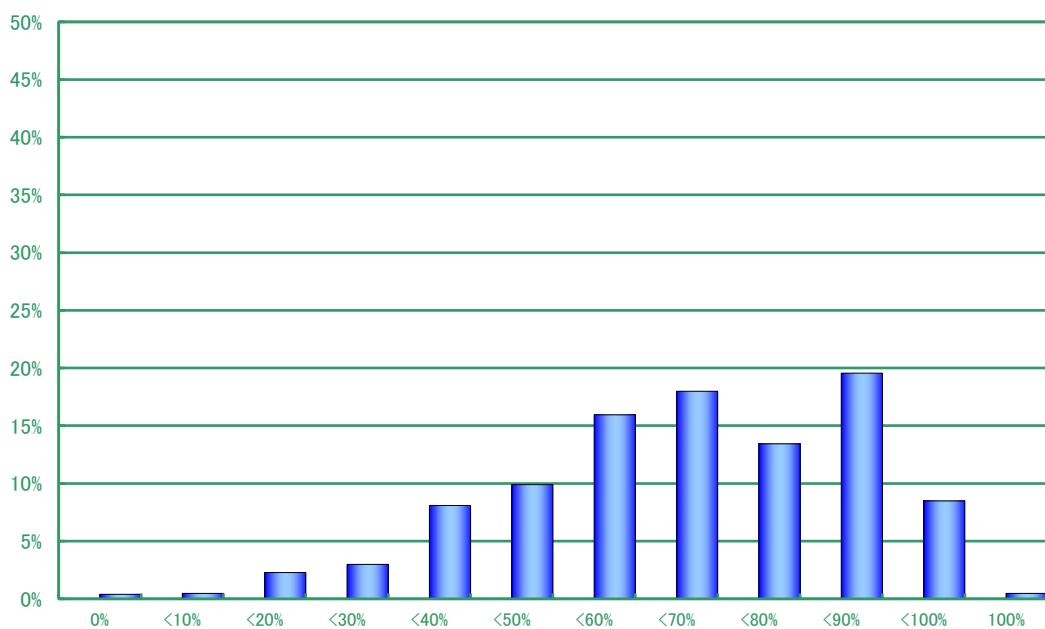
(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方にに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苦小牧市全体正答率 (%)	72.6	63.6	59.9	72.7	47.9	63.0
全国正答率 (%)	70.8	66.7	65.7	74.9	54.9	66.4
全国との差	1.8	▲ 3.1	▲ 5.8	▲ 2.2	▲ 7.0	▲ 3.4
苦小牧市標準スコア (今年度)	50.9	49.3	48.8	49.2	47.9	48.8

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苦小牧市全体正答率 (%)	70.6	58.9
全国正答率 (%)	70.0	63.5
全国との差	0.6	▲ 4.6
苦小牧市標準スコア (今年度)	50.3	48.0

(4) 正答率度数分布



■小学校5年生 算数

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率 (%)	60.1	63.8	50.8
全国正答率 (%)	67.9	70.1	62.2
全国との差	▲ 7.8	▲ 6.3	▲ 11.4
苫小牧市標準スコア (今年度)	46.6	47.0	46.2

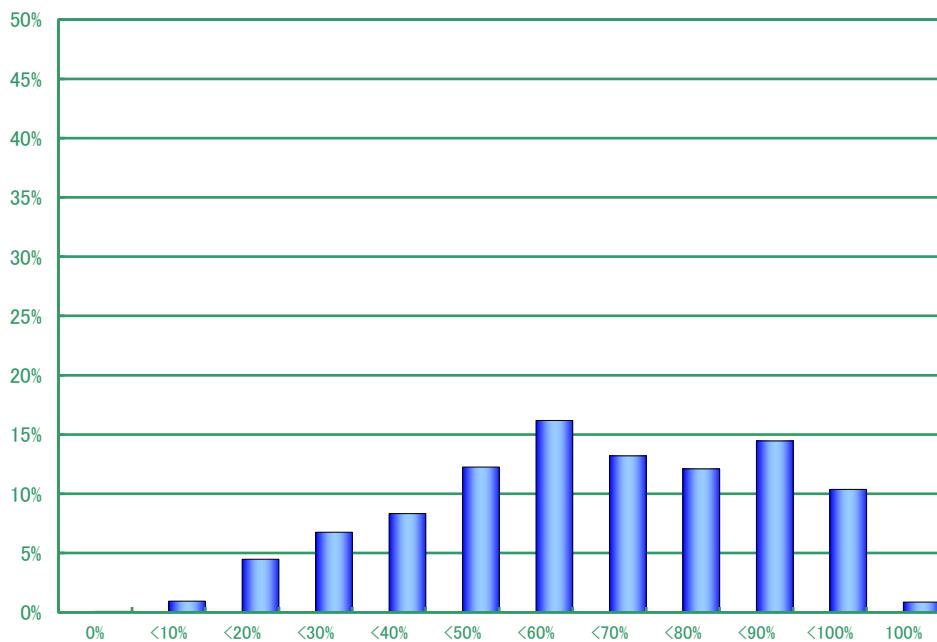
(2) 領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
苫小牧市全体正答率 (%)	63.9	53.1	58.6	61.6
全国正答率 (%)	70.4	63.5	67.2	67.6
全国との差	▲ 6.5	▲ 10.4	▲ 8.6	▲ 6.0
苫小牧市標準スコア (今年度)	47.0	46.3	47.1	48.2

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率 (%)	62.6	53.9
全国正答率 (%)	69.6	63.3
全国との差	▲ 7.0	▲ 9.4
苫小牧市標準スコア (今年度)	46.8	46.6

(4) 正答率度数分布



■小学校6年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苦小牧市全体正答率 (%)	59.6	65.7	45.8
全国正答率 (%)	66.4	71.8	54.1
全国との差	▲ 6.8	▲ 6.1	▲ 8.3
苦小牧市標準スコア (今年度)	46.4	46.6	46.7

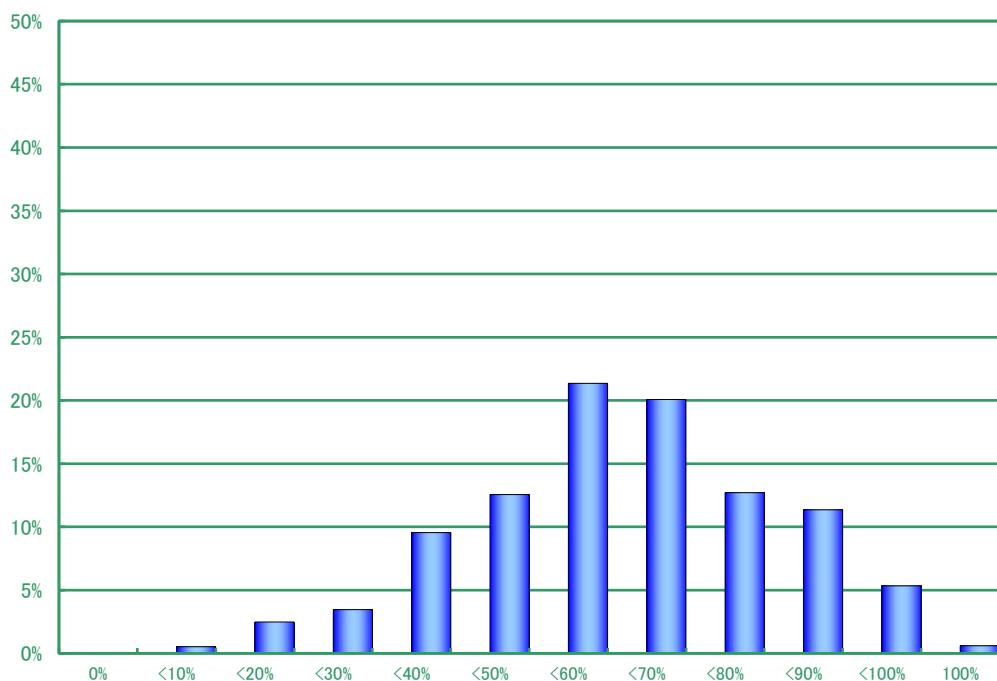
(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方にに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苦小牧市全体正答率 (%)	65.1	74.7	47.1	78.3	36.6	67.5
全国正答率 (%)	68.4	82.5	49.8	82.5	49.5	75.2
全国との差	▲ 3.3	▲ 7.8	▲ 2.7	▲ 4.2	▲ 12.9	▲ 7.7
苦小牧市標準スコア (今年度)	48.4	48.0	49.3	48.3	46.0	47.0

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苦小牧市全体正答率 (%)	62.7	57.3
全国正答率 (%)	66.3	66.4
全国との差	▲ 3.6	▲ 9.1
苦小牧市標準スコア (今年度)	48.2	45.9

(4) 正答率度数分布



■小学校6年生 算数

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率 (%)	51.7	57.8	33.6
全国正答率 (%)	60.9	66.7	43.5
全国との差	▲ 9.2	▲ 8.9	▲ 9.9
苫小牧市標準スコア (今年度)	45.6	45.9	45.7

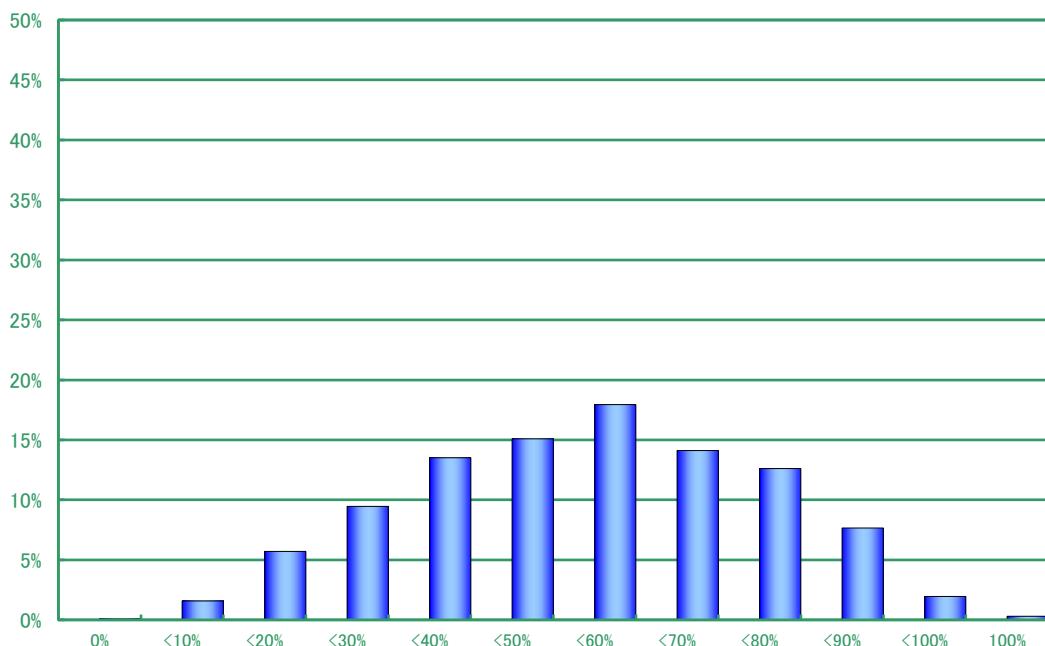
(2) 領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
苫小牧市全体正答率 (%)	52.0	54.6	53.8	36.8
全国正答率 (%)	60.8	63.4	64.0	46.7
全国との差	▲ 8.8	▲ 8.8	▲ 10.2	▲ 9.9
苫小牧市標準スコア (今年度)	46.4	46.2	45.7	46.8

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率 (%)	56.4	44.9
全国正答率 (%)	66.2	53.2
全国との差	▲ 9.8	▲ 8.3
苫小牧市標準スコア (今年度)	45.7	46.2

(4) 正答率度数分布



苫小牧市教育委員会・中学校 「令和7年度 苫小牧市統一学力検査」 考察資料

■ 調査目的

- 苫小牧市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上及び指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本及び活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 苫小牧市内の公立中学校1・2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

		苫小牧市全体 正答率 (%)	全国正答率 (%)	全国との差
中学校 1年生	国語	64.2	64.5	▲ 0.3
	数学	66.8	66.8	0.0
中学校 2年生	国語	62.6	65.0	▲ 2.4
	数学	50.8	53.6	▲ 2.8

■中学校1年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率 (%)	64.2	69.9	52.1
全国正答率 (%)	64.5	69.2	54.5
全国との差	▲ 0.3	0.7	▲ 2.4
苫小牧市標準スコア (今年度)	49.8	50.3	49.1

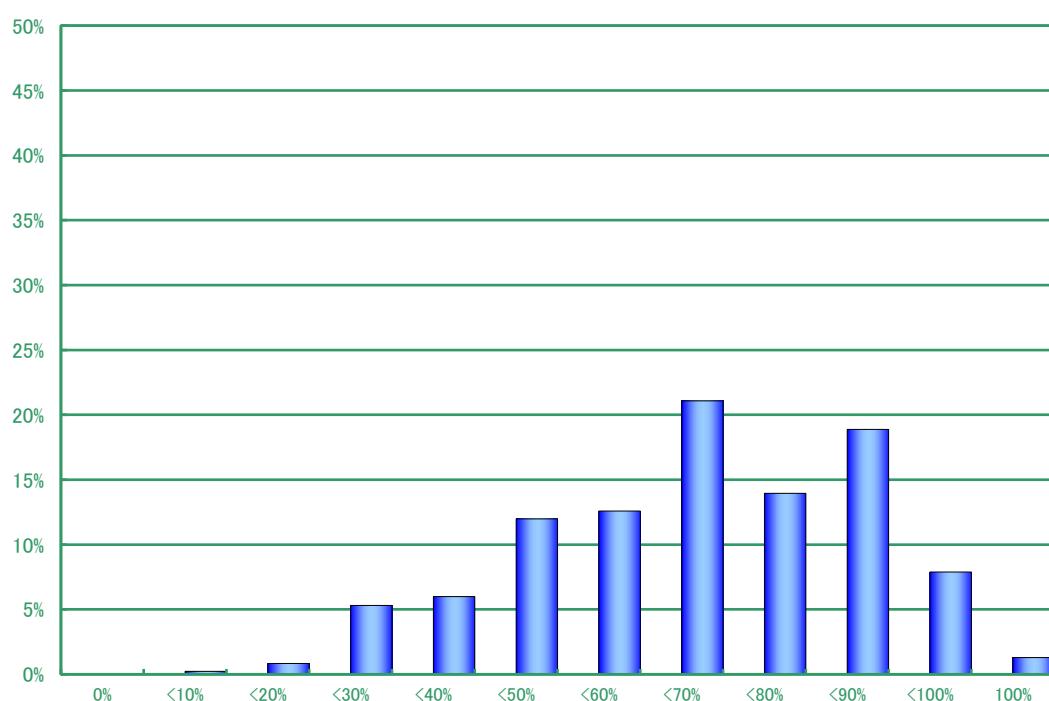
(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方にに関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苫小牧市全体正答率 (%)	71.3	71.9	66.1	52.7	62.6
全国正答率 (%)	68.6	73.3	65.3	58.5	62.5
全国との差	2.7	▲ 1.4	0.8	▲ 5.8	0.1
苫小牧市標準スコア (今年度)	51.2	49.7	50.3	48.3	50.1

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率 (%)	71.3	59.4
全国正答率 (%)	69.1	61.4
全国との差	2.2	▲ 2.0
苫小牧市標準スコア (今年度)	51.1	49.1

(4) 正答率度数分布



■中学校1年生 数学

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率 (%)	66.8	68.7	59.2
全国正答率 (%)	66.8	68.7	59.3
全国との差	0.0	0.0	▲ 0.1
苫小牧市標準スコア (今年度)	50.0	50.0	50.0

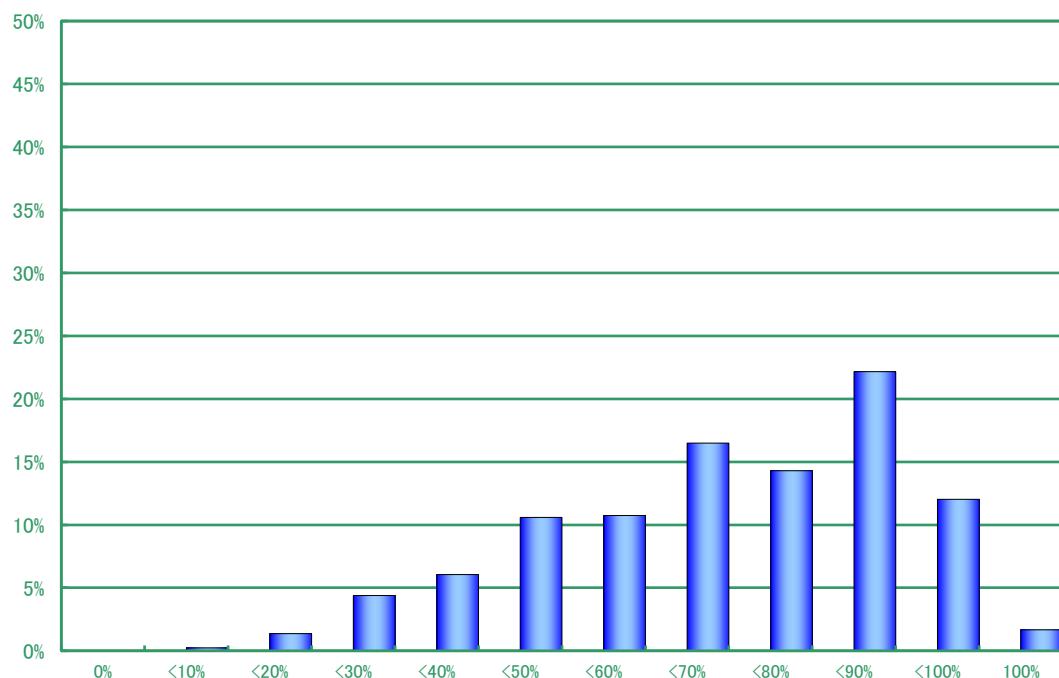
(2) 領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
苫小牧市全体正答率 (%)	74.2	67.1	69.9	53.3
全国正答率 (%)	74.4	66.9	67.7	55.3
全国との差	▲ 0.2	0.2	2.2	▲ 2.0
苫小牧市標準スコア (今年度)	49.9	50.1	50.9	49.2

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率 (%)	68.4	63.0
全国正答率 (%)	68.6	62.3
全国との差	▲ 0.2	0.7
苫小牧市標準スコア (今年度)	49.9	50.3

(4) 正答率度数分布



■中学校2年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苦小牧市全体正答率 (%)	62.6	67.9	51.1
全国正答率 (%)	65.0	69.9	54.5
全国との差	▲ 2.4	▲ 2.0	▲ 3.4
苦小牧市標準スコア (今年度)	48.9	49.0	48.8

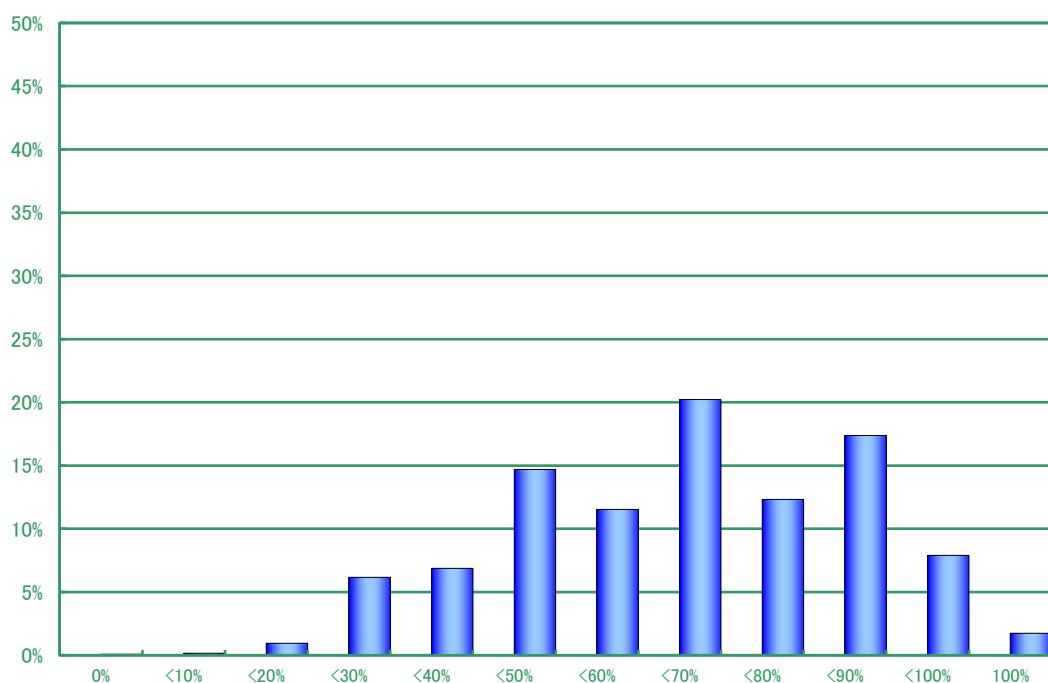
(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方にに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苦小牧市全体正答率 (%)	69.5	52.8	69.9	74.2	50.1	60.4
全国正答率 (%)	69.5	54.0	70.1	75.3	58.9	60.7
全国との差	0.0	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 8.8	▲ 0.3
苦小牧市標準スコア (今年度)	50.0	49.8	50.0	49.6	47.4	49.9

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苦小牧市全体正答率 (%)	67.8	59.0
全国正答率 (%)	68.0	62.9
全国との差	▲ 0.2	▲ 3.9
苦小牧市標準スコア (今年度)	49.9	48.4

(4) 正答率度数分布



■中学校2年生 数学

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率 (%)	50.8	56.1	33.5
全国正答率 (%)	53.6	58.5	37.6
全国との差	▲ 2.8	▲ 2.4	▲ 4.1
苫小牧市標準スコア (今年度)	48.8	49.0	48.5

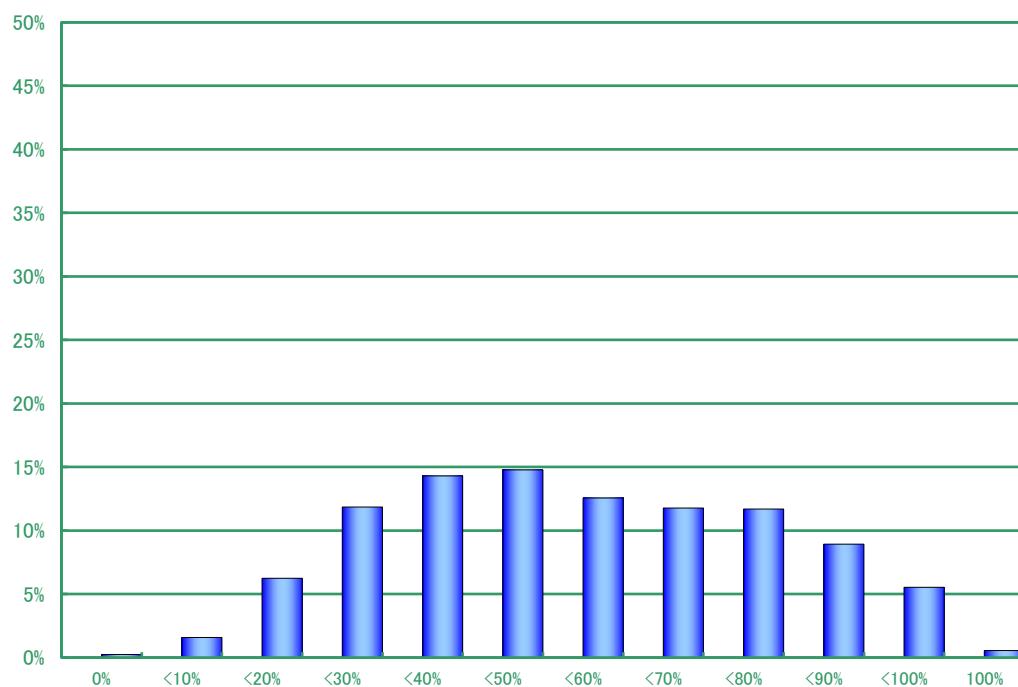
(2) 領域別正答率

	数と式	図形	関数	データの活用
苫小牧市全体正答率 (%)	56.7	54.0	45.4	41.5
全国正答率 (%)	59.7	55.4	47.6	47.0
全国との差	▲ 3.0	▲ 1.4	▲ 2.2	▲ 5.5
苫小牧市標準スコア (今年度)	48.9	49.4	49.2	48.1

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率 (%)	54.0	44.4
全国正答率 (%)	57.0	46.9
全国との差	▲ 3.0	▲ 2.5
苫小牧市標準スコア (今年度)	48.8	48.9

(4) 正答率度数分布



苫小牧市教育委員会 「令和7年度 苫小牧市統一学力検査」 の結果を踏まえた学力向上に向けた取組

本検査では、中学1年生の数学科を除き、小学4年生から中学2年生の国語科及び算数・数学科において、全国平均を下回る結果となりました。国語科では、特に「書くこと」、算数・数学科では、特に「データの活用」に関する内容の定着が不十分であることがわかりました。

子どもたちが授業で学習した内容をしっかりと習得し、次の学習に進むことが大切です。そのために、本資料においては、今求められている学びの姿をはじめ、家庭と学校の両輪で子どもたちの学びを支えていけるよう、次ページ以降にその視点をまとめました。

《掲載内容》

p 14 今、求められる学びの姿

- ・なにができるようになるか
- ・どのように学ぶか
- ・苫小牧市の授業改善策

p 15~16 家庭学習の意義・効果

- ・「家庭学習」って何のために？
- ・自分で調整しながら学べるようになるには？
- ・日々の家庭学習をより充実したものにするために

p 17~20 国語科（書くこと）に関する資料

- ・領域の概要と全国との差について
- ・学校での授業改善の視点について
- ・家庭での取組について
- ・「書くこと」の大切さとは！？

p 21~24 算数・数学科（データの活用）に関する資料

- ・領域の概要と全国との差について
- ・学校での授業改善の視点について
- ・家庭での取組について
- ・「データの活用」の大切さとは！？



今、求められる学びの姿



なにができるようになるか

各教科の学びを通じて育成を目指す資質・能力は、3つの柱があります

知識および技能

何を理解しているか
何ができるか

思考力・判断力・表現力等

理解していること、
できることをどう使うか

学びに向かう力

人間性等

どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか

どのように学ぶか

主体的な学び

- 学ぶことに興味や関心を持つ姿
- 見通しを持ち粘り強く取り組む姿
- 自己の学習を振り返って次につなげる姿

対話的な学び

- 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考える姿
- 自己の考えを広げ深める姿

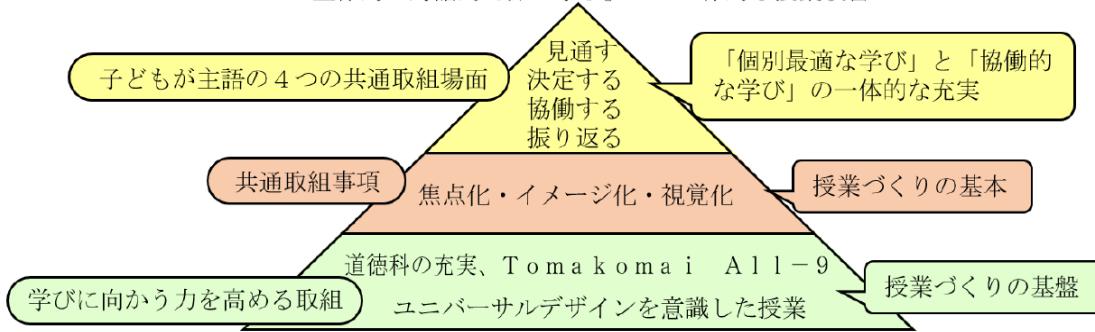
深い学び

- 習得した内容を活用したり、各教科の特質に応じて深く理解したりする姿
- 問題を見いだして解決策を考える姿

苦小牧市の授業改善策

苦小牧市では、子どもの資質・能力の育成につながる3つの柱を設定し、授業改善に取り組んでいます

「主体的・対話的で深い学び」への一体的な授業改善



イメージ図

学校教育における質の高い学びを実現することで、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける姿を目指します

子どもの学びを学校・家庭の両輪で支えるために

家庭学習について考えてみましょう



「家庭学習」って何のために？

家庭学習には、宿題などを通じて学校での学びの定着を図る効果や、自主学習などを通じて興味・関心を広げたり、学んだ知識を深めたりする効果があります。また、家庭学習は継続することにより、学習習慣の確立や集中力の向上、学力の向上など多くの効果が期待できます。これにより自信が生まれ、自己肯定感の向上につながります。

お子さんに、こんな様子は見られませんか？



学校での学びや家庭学習が受け身の状態では、なかなか力が入らず、せっかく時間を費やしても充実したものになりません。「主体的な学び」を行うためには、自分の学びを自分で調整しながら進められるようになることが必要です。そのためには、いくつかのステップが必要だと考えられています。

自分で調整しながら学べるようになるには？ <自己決定理論>をもとに考えてみましょう

他律的

自己決定

自律的

無動機	外発的動機付け				内発的動機付け
調整なし A 動機なし やりたくない 無意味	外的調整 B 報酬や罰 叱られるから 褒められるから	取り入れ的調整 C 義務感 やらなきゃいけないから 恥ずかしいから	同一化的調整 D 必要性 将来に必要だから 自分に重要だから	統合的調整 E 目的 力を高めたいから 幸せになるから	内発的調整 F やりがい 楽しいから 好きだから

(Deci & Ryan による「自己決定理論」を参考に作成)

自己調整を促すポイントは「動機付け」にあるとされています。動機付けには、行動そのものを楽しむ「内発的動機付け」と、外的な要因（他者との関わり等）による「外発的動機付け」の2つがあります。A→Cの段階では、やらされる感が強く受け身の状況になりますが、D→Fの段階であれば、子どもは目的意識をもって自分から取り組めるようになってきます。「主体的な学び」は D→F の段階であると考えられます。

ただし、子どもが自らそのことに気づき、自ら行動に移すことはなかなか難しいと考えます。そこで、家庭や学校など、大人の関わりが大切になってくるのです。

自己調整をうながす関わり方のポイントは？～5つの視点

1. 努力を認める

取り組んだ時間、取り組んだ量（漢字練習や計算の問題数など）、頑張った内容を認めてあげましょう！

2. 成長を認める

集中して取り組んだ時間、ノートのまとめ方、以前に比べてできるようになったことを認めてあげましょう！

3. 工夫を認める

理解を深めるために自分の言葉でまとめたり、表やグラフを活用したりしている工夫を認めてあげましょう！

4. 発想を認める

大人の思いつかないアイデアで書いていたり、専門的な内容を調べていたりすることを認めてあげましょう！

5. 発想を広げる

まとめた内容や考えに、違った視点を与えること、アドバイスしたりして学びの発想を広げてあげましょう！

お子さんが「次も頑張ってみよう」と感じるサポートを！



日々の家庭学習をより充実したものにするために…学校での学び方を接続！

1. 目標や課題を設定しましょう

学習に限らず、生きていくうえで目標を設定することはとても大切なことです。

目標の設定の仕方には大きく二つあります。

（1）学年の終わりや将来に向けてなど、長期的な目標

→「〇〇の仕事につきたい」や「〇年生の終わりまでにこうなりたい」など、大きなゴールを設定することで、日々頑張るポイントが見えてきます。

（2）単元テストや定期テストなど短期的な目標

→「〇点をとりたい」など近いゴールを設定することで計画性が生まれ、日々の学びを積み重ねやすくなります。

学校でも、課題を設定し、「この時間何ができるよいか」がわかるよう工夫しています。

学校の学び方とリンク！

2. 学習を振り返り、次の学びに生かしましょう

計画的な学びを進めるためには「振り返る」ことも大切な要素です。家庭学習を通じて、「何ができるようになったか、わかったか」または「何ができないのか」を認識することで、「次何をすべきか」を発見することができます。

方法は、文章でノートに書いたり、チェックリストをつくったり、ご家庭の誰かに伝えたると様々です。家庭学習を継続するためにも、「振り返り」を大切にしてみましょう。

※お子さんによって、生活時間の使い方は様々だと思います。そのことをふまえて、お子さんに見合った学びの形を考えていくことが大切です。各学校の「家庭学習の手引き」等も参考にしながら、お子さんの家庭学習がより効果のあるものになるようサポートしていきましょう！

苫小牧市統一学力検査の結果より

国語科 課題の見られる内容



苫小牧市の小・中学生の課題は…「書くこと」に関する内容！

そもそも「書くこと」では、どんなことを学ぶのでしょうか？

→各学年で共通して以下の学習過程を学んでいます。

題材の設定
情報の収集
内容の検討

構成の検討

考えの形成
記述

すいこう
推敲

共有

この学習過程を通じて、説明的な文章や文学的な文章を書けるようになります。

今回の学力検査では、「いくつかの条件を満たしながら、文章にまとめる」問題が出題されました。

- 条件① ○行～△行で書く。 ※①、②の条件は、小・中学校共通
- ② 2段落構成で書く。
 - ③ (小) 自分の考えを明確にして文章を書く。
(中) 資料から読み取ったことや、特徴をもとに文章を書く。
 - ④ (小) 自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く。
(中) 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く。

4つの条件の中でも、特に①と②について、正答率の低さや無回答率の高さに課題が見られました。

条件① ○行～△行で書く

学年	小4	小5	小6	中1	中2
市正答率	49.6	45.9	40.5	56.4	52.1
全国正答率	60.1	57.2	60.2	65.0	68.1
市無回答率	18.5	21.7	33.6	24.3	28.7

条件② 2段落構成で書く

学年	小4	小5	小6	中1	中2
市正答率	39.7	49.5	35.8	47.2	50.6
全国正答率	47.3	58.7	56.9	56.3	63.7
市無回答率	18.5	21.7	33.6	24.3	28.7

各学校では、次のような視点を見つめ直してみませんか



○「書くこと」における言語活動を系統的に扱いましょう

前ページに示したとおり、学年を問わず「構成の検討」や「考えの形成・記述」の過程に課題があるといえます。「書くこと」の学習において、発達段階に応じた言語活動を設定するとともに、9年間の系統性を意識して指導を継続するようにしましょう。

例) 説明的な文章を書く言語活動の系統性

小学1・2年	身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。
小学3・4年	調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
小学5・6年	事実を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
中学1年	本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
中学2年	多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。
中学3年	関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

○言語活動のゴール例に明確な視点（条件）を加えてみましょう

言語活動のゴールを示す際、教科書の例などを参考に書く活動の条件を提示するようにならう。書き方がわからない児童生徒が減るだけでなく、評価のポイントが明確になり見通しをもち学びを進めることにつながる効果が期待できます。

例1) 小学4年「工芸品のみりょくを伝えよう」

※想定される条件例※

- ①魅力が伝わるように、紹介するもののよさが書かれて
いる。
 - ②よさを具体例を挙げて、くわしく書いている。
 - ③読む人にとって想像しにくいものは、写真や絵を使っ
て説明している。



例2) 中学1年「情報を整理して説明しよう」

※想定される条件例※

- ①文章の構成が、「名前」→「構造や仕組み」→「発見したこと」→「まとめ」の順になっている。
 - ②300~400字程度でまとめられている。
(必要な情報を取捨選択している。)
 - ③道具を観察したり、試しに使ったりして気づいたことが文中に書かれている。

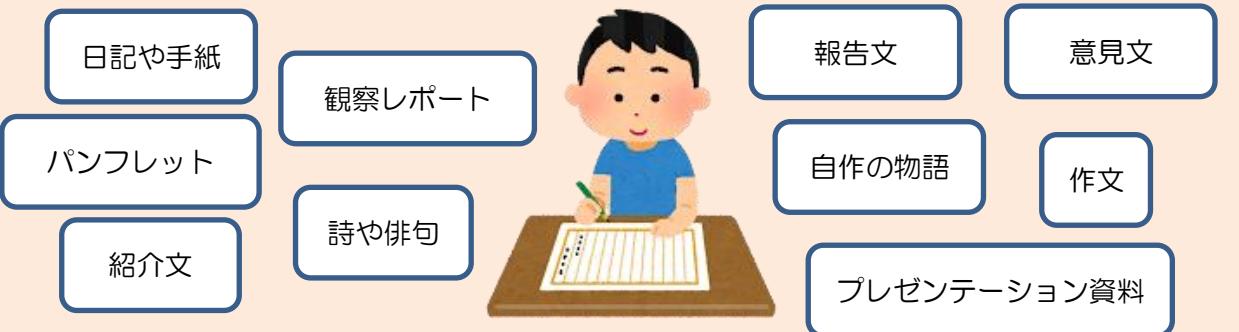
「道具の使いやすさの秘密を、不特定多数に向けて説明した文章の例

各家庭では、こんなことに取り組んでみませんか



○お子さんの「書く活動」について知りましょう！

前ページのように、お子さんは学校で段階的に書く力を高めています。学校での学習では多様な書く活動を行います。ぜひ、どのような学びを進めているかお子さんの書いた文章をじっくり読んであげてください。



例1) 小学3年「わたしの町のよいところ」

→苦小牧市のよいところを紹介する文章を書く学習です。「はじめ」「中」「終わり」の構成であること、考えたことをくわしく伝えることが求められます。**よいと思った理由の書き方、構成のわかりやすさなどについて感想を伝えてあげてください。**

例2) 小学5年「あなたは、どう考える」

→日常の中で身近なことをテーマに意見文を書く学習をします。テーマに対する自分の主張をはっきりさせ、根拠や予想される反論も考えて文章を構成しなければなりません。

小学生はどのような反論がくるか予想することを苦手とします。**お子さんの考え方に対して、さらに掘り下げて質問してあげてください。**

例3) 中学2年「適切な根拠を選んで書こう」

教科書に提示されているゴール例↓

意見	根拠・理由つけ	意見
中学生になると、説得力のある意見を述べるために適切な根拠を求めることがや、想定される反論とそれに対する意見などを考えて文章にします。	第一回、「模擬選挙を通して、投票の意義を深く学ぶことができる。若者が投票しない主な理由として、「選舉にあまり関心がないから」「投票に行くのが面倒だから」となどがあり（総務省「十八歳選挙権に関する意識調査」二〇一六）、投票の意義を学ぶ点に課題があることが読み取れる。模擬選挙で実際に「票を投じることで、一票の重みや投票の意義を学ぶことができるだろう。	若者の投票率を上げるにはどうすればよいか 若者の投票率の低さが問題になっている。総務省によると、二〇一二年参議院議員選挙の十代の投票率は約三十五パーセントで、全年代の平均約五十二パーセントを大きく下回った。若者の投票率を上げるには、何が必要だろうか。 私は、中学校の授業で模擬選挙を行い、投票の意義や方法を実践的に学ぶ場を設けることが必要だと考える。そう考える理由は二つある。
お互いの意見を交わしたり、感想を伝えたりすることを通して、お子さんの考	第二回、「模擬選挙を繰り返し体験することで、投票の具体的な方法や流れがわかる。私自身、あと四年で投票できる年齢になるが、投票している自分を想像できず、不安がある。模擬選挙を通じて具体的な方法があれば、不安は軽減されるだろう。さらに、選挙権を得る前の高校からはではなく、義務教育の中学校から行うことで、よりしっかりと準備することができる。実際に、若者の投票率の高いことで知られる山形県、遊佐町やスウェーデンでは、中学生が投票する機会を設けているという（〇〇新聞二〇一三年六月二十四日朝刊）。	二年二組 岸さやか
えの力はより高まります。	いっぽう、授業で模擬選挙を行ったからといって、実際に選挙に行くようになることは限らないという反論もあるだろう。確かに、模擬選挙を行って投票率が上がるということを示す有力な資料を見つけることはできなかった。しかし、高校の授業で模擬選挙を体験した姉によると、実際に、選挙への意気は高まっている。毎年模擬選挙を行っている姉の高校では、三年生の二〇一二年参議院議員選挙の投票率が六割を超えていたそうだ（青空市立北高校 学校便り九月号、二〇一二）。	若者の投票率を上げるにはどうすればよいか 若者の投票率の低さが問題になっている。総務省によると、二〇一二年参議院議員選挙の十代の投票率は約三十五パーセントで、全年代の平均約五十二パーセントを大きく下回った。若者の投票率を上げるには、何が必要だろうか。 私は、中学校の授業で模擬選挙を行い、投票の意義や方法を実践的に学ぶ場を設けることが必要だと考える。そう考える理由は二つある。
業で模擬選挙を行うことを提案する。	以上のことがから、私は、投票の意義と方法を学ぶために、中学校的授業で模擬選挙を行うことを提案する。	若者の投票率を上げるにはどうすればよいか 若者の投票率の低さが問題になっている。総務省によると、二〇一二年参議院議員選挙の十代の投票率は約三十五パーセントで、全年代の平均約五十二パーセントを大きく下回った。若者の投票率を上げるには、何が必要だろうか。 私は、中学校の授業で模擬選挙を行い、投票の意義や方法を実践的に学ぶ場を設けることが必要だと考える。そう考える理由は二つある。

各学年の教科書には、その学習でのゴール例が提示されています。お子さんの文章を読む際の参考にしてみるのも、感想を伝えるポイントになります。

「書くこと」の大切さとは！？



効果1 「論理的思考力」が育成される！

論理的思考力（物事や情報を的確に分類し、筋道を立てて自分の考えを明確化する力）の育成は「書くこと」が中心になると言われています。「書くこと」は、複雑な事象の中身や、物事に対する多様な考え方などが整理され、自分の考えを広げることにつながります。

加えて…

コミュニケーション能力の向上

問題解決能力の向上

客観的判断ができるようになる

未経験のことに対応しやすくなる

効果2 自分の考えを正確に伝えられるようになる！

「書く力」が高まることによって、いろいろな場面で、自分の考えを正確に伝えられるようになります。国語に限らず、各教科の学び、言語活動に大きく生かされます。



《算数・数学科》

数学的な推論を的確に進めることができるように、思考の過程や判断の根拠を表現する活動

《社会科》

資料を活用して歴史的事象を説明したり、考察したことを自分の言葉で表現したりする活動



《図画工作科・美術科》

鑑賞において、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合う活動

《理科》

実験結果を分析し、図や表なども活用しながら考えをまとめ表現する活動



《技術・家庭科》

調理やものづくりなどの体験を踏まえて学んだことをまとめたり考察したりする活動

《特別の教科 道徳》

終末の場面でその時間の学習を振り返り、価値項目に対する考えを深める活動



結果として…



子どもたちが大人になってからも、レポート、企画書やスピーチ原稿の作成など、自分の考えをまとめることによってアウトプットする場面は多岐にわたります。「書く力」の高まりは、子どもたちの人生を豊かにすることにつながります。



苫小牧市統一学力検査の結果より

算数・数学科 課題の見られる内容



苫小牧市の小・中学生の課題は…「データの活用」に関する内容！

そもそも「データの活用」では、どんなことを学ぶのでしょうか？



～中心となる学習活動～

- 目的に応じてデータを収集したり、分類整理したり、結果を適切に表現したりする。
- 統計データの特徴を読み取り活用のしかたを判断する。

具体的には、下表のような内容を系統的に扱います。

学年	主な内容
小学1・2年生	絵や図、簡単な表やグラフをもとに、身の回りのことについて考える。
小学3・4年生	棒グラフや折れ線グラフをもとに、データを分類したり考察したりする。
小学5・6年生	円グラフやドットプロットをもとに、問題解決したり、多面的に考察したりする。
中学生	ヒストグラムや標本調査をもとに、批判的に考察し、表現する。

今回の学力検査では、各学年で統計データを正しく読み取る問題と、小学5年生以上では読み取った情報をもとに考察したり説明したりする問題が出題されました。

- 小学4年生→棒グラフ
- 小学5年生→折れ線グラフ
- 小学6年生→円グラフ
- 中学1年生→ドットプロット
- 中学2年生→ヒストグラム

いずれの問題においても、正答率の低さや無回答率の高さに課題が見られました。

統計データを正しく読み取る問題

学年	小4	小5	小6	中1	中2
市正答率	27.9	66.9	47.5	28.2	64.1
全国正答率	34.5	76.2	54.4	32.5	70.1
市無回答率	5.9	7.0	8.8	8.3	21.2

読み取った情報をもとに考察したり説明したりする問題

学年	小4	小5	小6	中1	中2
市正答率		65.5	11.1	38.2	22.0
全国正答率		69.8	18.9	40.1	27.1
市無回答率		9.3	58.4	17.8	54.3

各学校では、次のような視点を見つめ直してみませんか



○「数学的活動」を通した学習過程のイメージを再確認しましょう

数学的活動は、子どもにとって算数・数学科を学ぶための方法です。

また、数学的活動に取り組むこと自体が、知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等を養うことにつながることから、各学年の系統性を意識した指導を進めることができます。

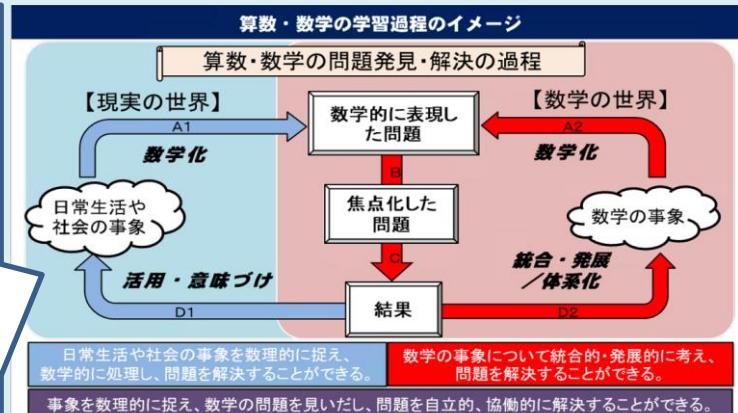


図 中教審答申の別添資料（別添4-3）

例) 日常の事象から見いだした問題を解決する数学的活動の系統性

小学1年生	日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動
小学2・3年生	日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
小学4・5年生	日常の事象から算数の問題を見いだして解決し結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動
小学6年生	日常の事象を数理的に捉え問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動
中学生	日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動

○9年間で段階的に統計的な問題解決の方法が習得できるようにしましょう



統計的な問題解決とは、左図の通り「問題—計画—データ—分析—結論」の5つの段階を経て問題解決することを指します。

今回の学力テストの結果においては、データ～結論に至る過程において課題があることが推察されました。

【ポイント】9年間で段階的に力を高めていくことが大切です。

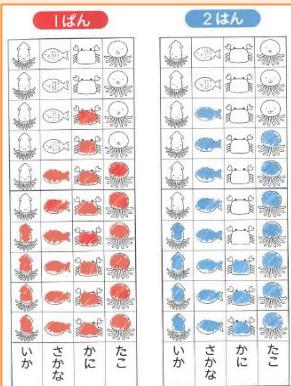
- ・小学校低・中学年はデータの処理やデータからわかるなどを表現できるようにしましょう。
- ・小学校高学年は、統計的な問題解決の流れをしっかりおさえましょう。
- ・中学生は、分析をもとに結論を出す過程に重点をおきましょう。

主体的に活動することができるよう、学習の目的に応じて統計的な問題解決活動の展開を組み立てていくことが大切です！

各家庭では、こんなことに取り組んでみませんか



○「データの活用」について、どのような学びをしているか知りましょう！

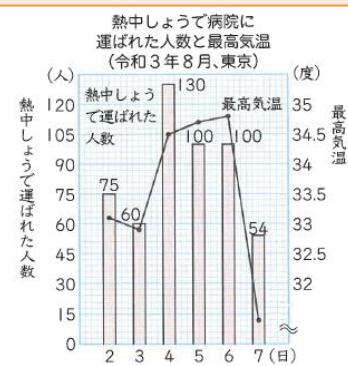


小学1年生「わかりやすくせいりしよう」

このような問題です。4種類の生き物でつりゲームをして、とれた数を整理しました。あたりの生き物は「かに」です。あたりの生き物が多い班が勝ちです。

「① かったのはどちらのはんですか。②もしあたりのいきものがたこだったら、どちらのはんがかちですか。」

→1年生からデータの読み取りは始まっています。簡単なデータを整理して、個数に着目しながら特徴をとらえます。日常生活や学校生活の場面ともつなげながら学んでいきます。



小学4年生「グラフや表を使って考えよう」

このような問題です。

「①運ばれた人数がいちばん多いのは何日ですか。また、その日の最高気温は何度ですか。②左のグラフでは、最高気温が上がると、運ばれた人数は必ずふえていますか。」

→4年生になると、複数のデータから特徴を読み取ります。問題を解決するためには適切なグラフを選択して判断することがポイントです。



中学3年生「標本調査」

このような問題です。

「ウェブサイトで、ある食品に関する左のような記事を見つけました。この調査の方法や結論は、適切であるといえますか。また、その理由を説明しなさい。」

→身の回りで行われる標本調査の方法や結論について考察します。結果が正しいか批判的に考察することがポイントです。

このように、9年間を通じて、段階的に学びを進めています。算数・数学科に限らず、社会科ならば人口の推移などのグラフ、理科であれば実験結果など多くの場面でデータをもとに考えたり、判断したりすることを通して学んでいますので、他教科においても注目してみてください。

○日常生活においてもたくさんのデータが！

生活の中でもニュースや新聞、インターネットの情報などさまざまなデータを目にする機会があります。そのような機会を活用して一緒にデータからわかることや考えたことを話し合ってみてください。



「データの活用」の大切さとは！？



効果1 「批判的思考力」が育成される！

批判的思考力（物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力）は「データの活用」の学習を進める中で主に培われます。批判的思考力は日常生活や社会の中にあふれている様々なデータに対して鵜呑みにするのではなく、「本当に正しいのかな？」と立ち止まって考える姿につながります。

批判的思考力を働かせる子どもの姿



このデータは信頼できる？

調べ方は正しい？

この結論で良いのかな？

積み重ねると…

分析から自分なりの結論が
出せるようになる

自分や相手の出した結論が
妥当か考えられるようなる

データや分析の結果を生活
や学習に活用しはじめる

効果2 他教科の学びにも大きなつながりが！



国語科では、「情報の取扱いに関する事項」において、情報と情報との関係を理解したり、情報の整理の仕方を学んだりします。また、社会科では、調査活動等で必要な情報を調べまとめる技能を身に付けます。グラフや数値の読み取り方、分析の力は他教科の学びにおいても活用できます。

データや情報にはさまざまな形があり、向き合い方も場面に応じて変わりますが、子どもが身に付けるデータの活用の力は算数・数学科だけに留まらないと言えます。

これからの社会を生きる子どもにとって…

急速に発達しつつある情報化社会において、確定的な答えを導くことが困難な事柄についても、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが求められます。予測困難な時代だからこそ、「データの活用」で培われる力は子どもたちに不可欠だといえます。

